

当院における COVID-19の検査状況

静岡市立静岡病院 検査技術科
芹澤さつき

目的

- 当院は第一種感染症指定医療機関であり、院内のCOVID-19検査体制確立のため、2020年3月より既存の検査機器 LAMP法による遺伝子検査を、静岡県内でいち早く開始した。
- その後、PCR法、抗原定量法による検査も導入し、現在に至る。
- 今回、これらの検査状況を集計したので、その結果を報告する。

当院で採用している検査機器



LoopampEXIA
(LAMP法)



GeneXpert
(PCR法)



FilmArray
(PCR法)



ルミパルスG1200
(抗原定量法)

方法

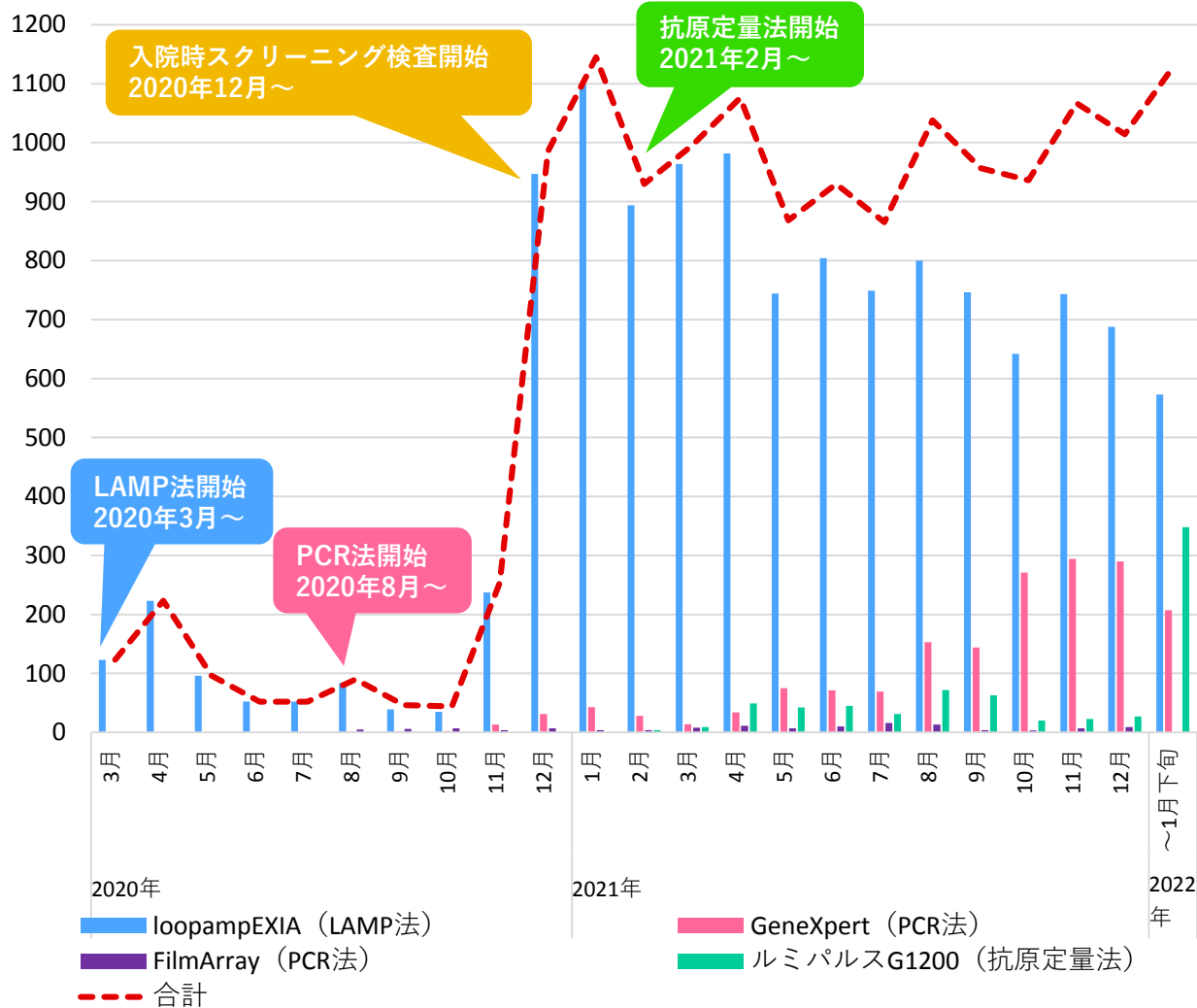
- 期間：2020年3月～2021年12月
- 対象：当院で実施したCOVID-19検査
- 方法：以下について集計した。

1. 検査件数
2. 検査材料
3. 患者背景（年齢別、入院外来区分）
4. 検査結果

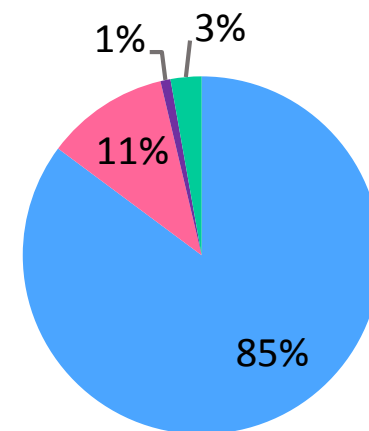
なお、同一患者の検査が複数回実施された場合は、のべ件数として集計した。

結果

1. 検査件数



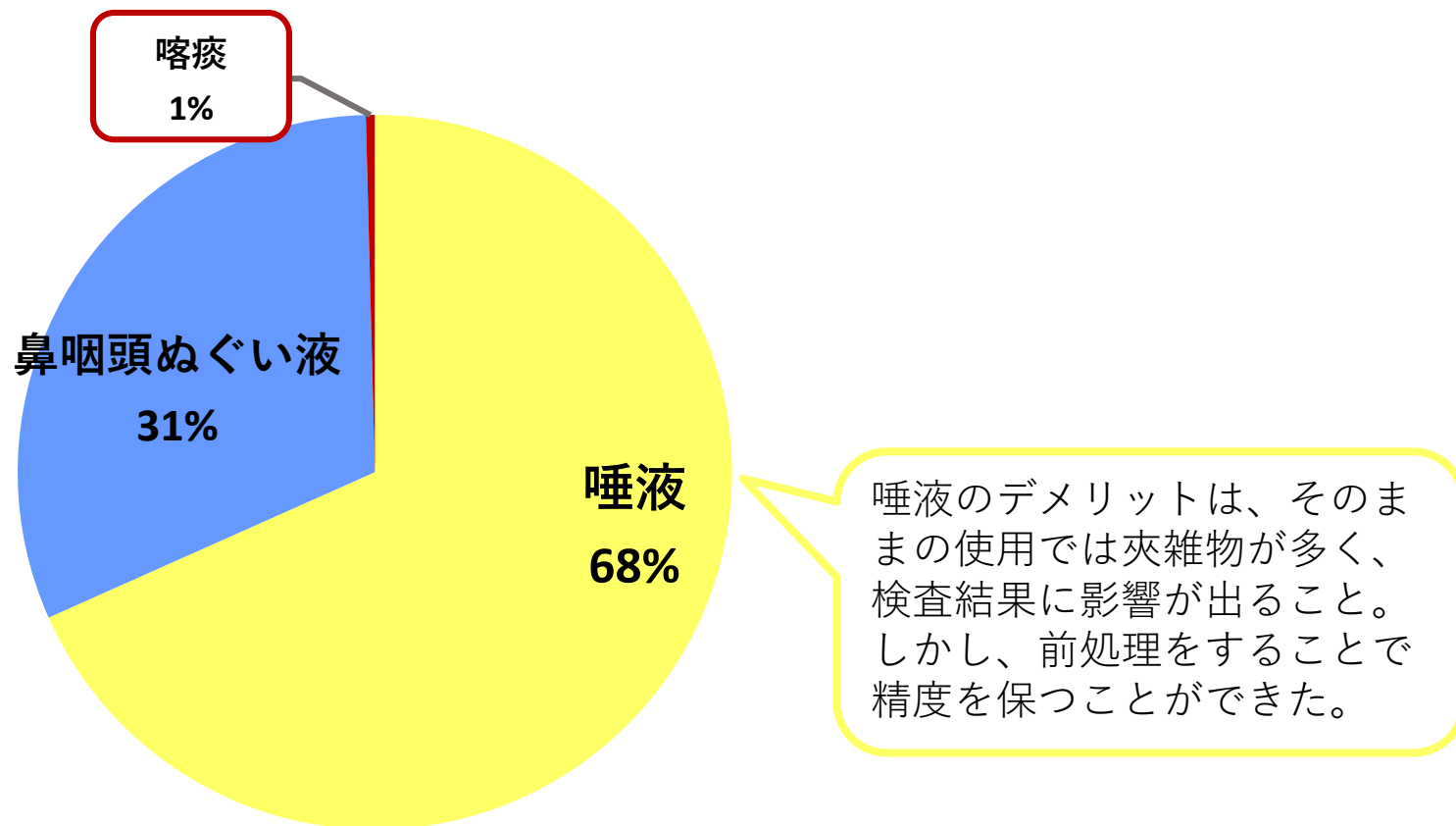
機器別 検査内訳



- loopampEXIA (LAMP法)
- GeneXpert (PCR法)
- FilmArray (PCR法)
- ルミパルスG1200 (抗原定量法)

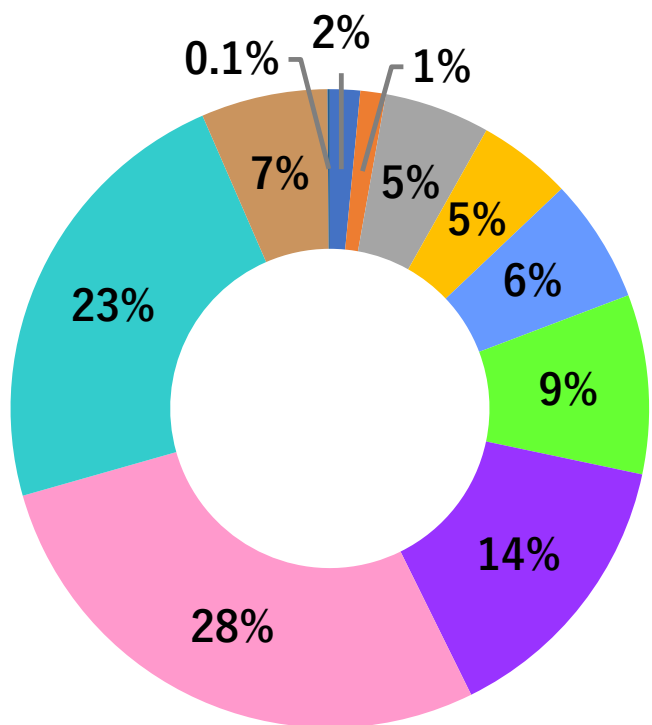
2. 検査材料

当院の検査材料は、2020年6月から当初の鼻咽頭ぬぐい液と喀痰に唾液が加わった。



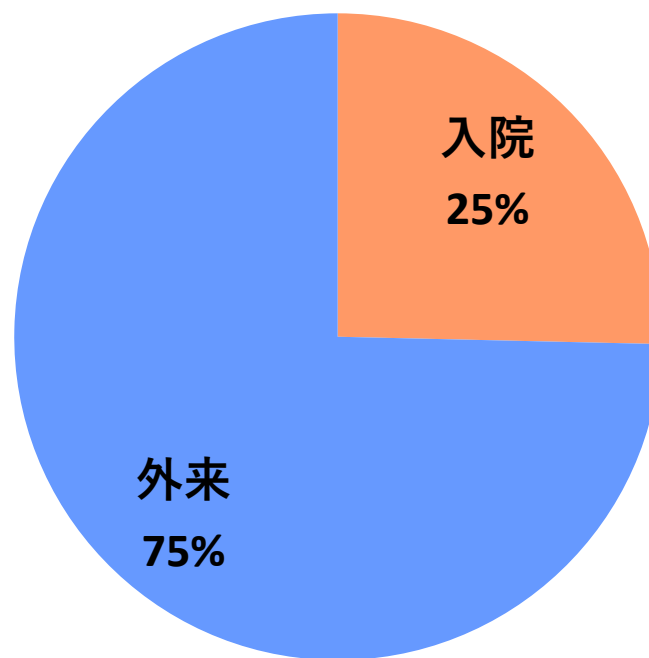
3. 患者背景

(1) 年齢



■ 0～9歳 ■ 10～19歳 ■ 20～29歳
■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳
■ 60～69歳 ■ 70～79歳 ■ 80～89歳
■ 90～99歳 ■ 100～歳

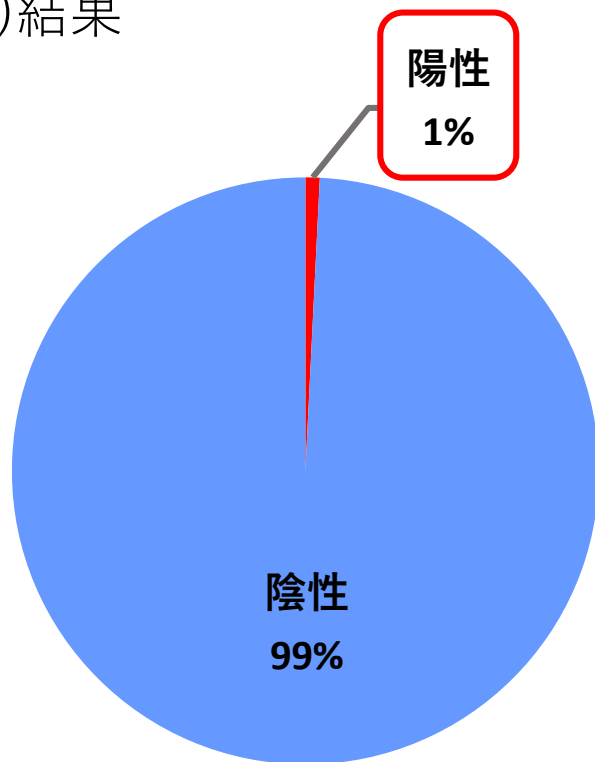
(2) 入院・外来



入院時スクリーニング検査は、
外来で依頼している場合が多い。

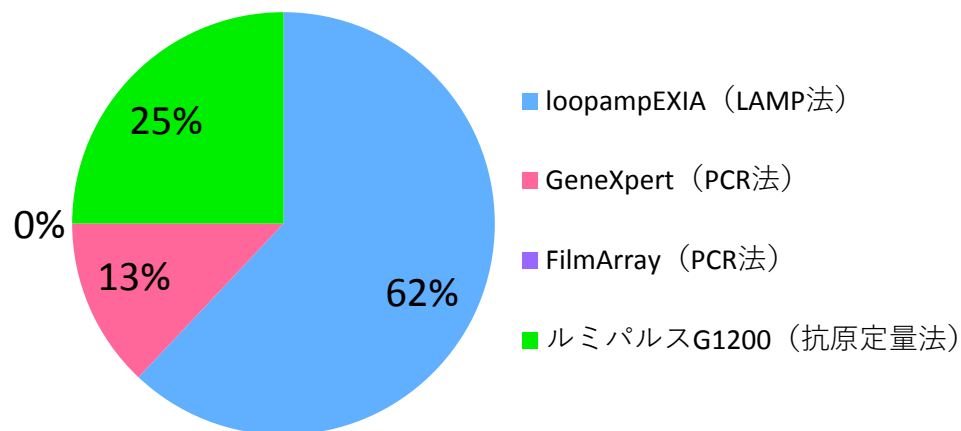
4. 検査結果

(1)結果

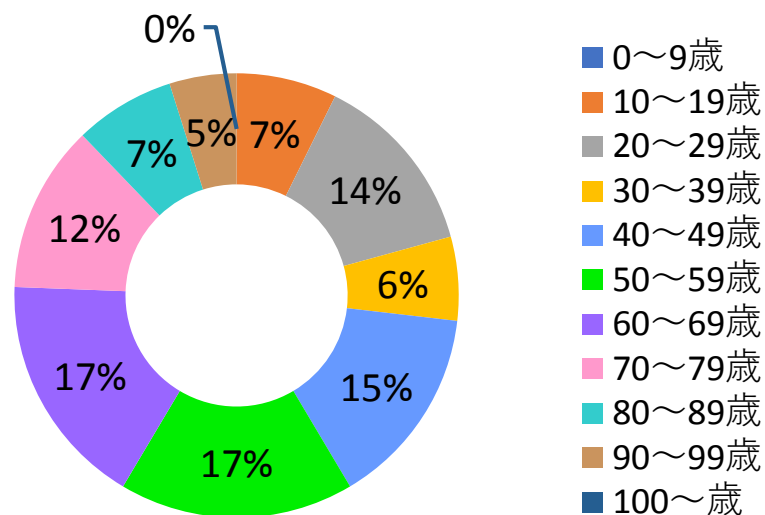


抗原定量法において、判定保留は抗原定量法全件数の3.4%。
このうちPCR法にて再検した結果、陽性となったのは39%だった。

(2)陽性結果の機器別内訳



(3)陽性者の年齢別内訳



まとめ

- 2020年12月から開始した入院時スクリーニング検査により、検査件数は大幅に増加した。
- 検査材料に唾液を採用したことで、検体採取時の採取者の負担を軽減するとともに感染リスクの抑制につながったと考える。
- 陽性結果となった患者については、家族や知人が陽性者であり、濃厚接触者として該当したため検査を受けた場合や、個人病院や民間のPCR検査センター等での陽性結果を受けて保健所から紹介された場合がほとんどだった。
- 遺伝子検査法（LAMP法、PCR法）と抗原定量法を目的に合わせて使い分けることにより、状況に応じた適切な検査体制を確立することができたと考える。
- 今後、検査件数の増加も予想されることから、2022年1月24日より入院時スクリーニング検査を抗原定量法へ変更した。検査時間が大幅に短縮されることにより、患者や臨床の負担が軽減されることを期待したい。